

風° 天(プーテン)の由来

「風来坊」とか「ふうてん(瘋癲)」という名前付けは、戦前のあの息苦しい時代にも流行^{はや}った。気持ちを風流に、または温和に保ちたいという雰^{ふん}囲^{いき}気からであろう。

戦後になると、例の「わたくし、生まれも育ちも葛^{かつしか}飾^{しば}柴^{また}又^{また}です。帝^{たい}釈^{しゃく}天^{てん}で産湯を使い、姓は車^{くるま}、名は寅^{とら}次^{じろ}郎^{ろう}、人呼んでプーテンの寅と発します・・・」。

さて、当協会の初期の委員会で会報を発行すること、その題号をなんと付けるか、という議案が出たときの話に移る。

ありきたりの提案がいくつかあった。西堀善次氏が唐突に「プーテン・ニュース」ではどうかナ・・・と言いだした。

中口 博会長以下みんな笑い出したが同意した。年配の戦争を潜ってきた人達ばかりであって、西堀氏の意図は読めたからだ。

おおば比呂司氏が題号の図案化を引き受けて、ついでに「フー」ではなく「プー(半濁音)」としたいと提案して「プーテン」に決まったのであった。

引用:2009 年 11 月 20 日発行の「風° 天ニュース」第 94 号 P23

片桐敏夫(かたぎりとしお)氏のコラムより抜粋